



「北海道小麦今昔物語」の発刊にあたって

ホクレン農業協同組合連合会
農産事業本部長 吉守 克美

北海道における小麦作りの最古の記録は、江戸時代末期（安政5年）の根室国での栽培に始まります。

その後、明治初頭に開拓使がアメリカから種子を導入、作付けを奨励してから現在まで、小麦は幾多の変遷を経ながら100年余の歴史を持つ本道農業にとってなくてはならない重要な基幹作物となっていることはいまさら申すまでもありません。

これは、多くの先人の皆様の英知と、関係者各位のご指導・ご尽力の賜物と考えるところであります。

時ここにいたり平成12年（西暦2000年）より、麦の流通が従来の政府管理から民間流通に移行するという節目の年をむかえ、本道の小麦関係者がこの重い歴史を振り返り、今と昔を一般消費者の皆様幅広く紹介することで北海道小麦に一層の愛着をもって頂くため、ここに記念誌「北海道小麦今昔物語」を発刊いたします。

本誌が本道における21世紀の小麦作りの更なる飛躍の一助となることを祈念して発刊のご挨拶といたし、あわせて本誌の作成にあたりご指導ご協力を賜りました関係の皆様へ心より感謝を申し上げます。



「北海道小麦今昔物語」の発刊によせて

北海道農政部
部長 西川 昌利

北海道に小麦が導入されて100年余りが経過し、また、平成12年産よりこれまでの政府買入から民間流通に移行することを契機に、記念誌が発刊されますことは、誠に意義深いことであり心からお祝い申し上げます。

顧みますと、本道における本格的な小麦生産は、明治以降米国小麦の導入によって始まりましたが、以来、本道の厳しい気象条件を克服しながら、現在では約10万ヘクタールの作付がなされ、我が国最大の小麦産地として国内生産量の約6割を占めるに至るなど、本道農業の基幹作物として重要な地位を築いております。

本記念誌は、道産小麦の品種開発、栽培、流通、加工販売も携わってこられた関係者が、歴史や品種、生産事情など様々な角度から道産小麦を紹介する優れた啓発書であります。

民間流通という節目にあたり、本誌の発刊が、一般消費者や実需者の皆様から道産小麦への一層のご理解とご愛顧をいただく機会となりますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。